

文部省研究開発学校 第3年次研究発表会

3	国際化社会を生きる私達 －体験を通して考える 他者理解－	広島修学旅行フィールドワークを 中心に行ってきたグループ研究の まとめを2会場で発表する。	寺井 一、鈴木 一悠 福谷 敏、加藤 容子	中3 A 中3 B
---	------------------------------------	---	--------------------------	--------------

高等学校

学 年	総合人間科学年テーマ	授 業 内 容	授 業 者	授業場所
1	生命と環境Ⅱ －考えよう！ 私達のネットワーク－	「生命と環境」をどの生徒も、自 分なりの関心や足場から追求して きた。話し合いを通して、そうし た課題のつながりを探ったり、自 分の追求を見つめ直す。	川合 勇治、三小田博昭 石川 久美、気駕 まり 斉藤 真子、米田 閏一 矢木 修	視聴覚教室 地学教室 社会科教室
2	国際理解・平和・人権 －沖縄から平和を学ぶ－	生徒たちはテーマを中心に沖縄を フィールドとして学んでいる。そ の学習の一環として生徒によるデ ィバードの授業を公開する。	仲田 恵子、徳井 輝雄 山田 孝、三島 徹 滝口 恵子、田中 裕巳	第2体育館
3	生き方を探る －My Life 未来を語る－	自分の人生設計とこれからの社会 で直面する問題を生き方として捉 え、学年全体でパネルディスカッ ションを計画している。	長谷川 弘、佐藤喜世恵 楨本 直子、鈴木 克彦 湯澤 秀文、川田 基生 丸山 豊	小体育館2階

(3) 講演 13:00～13:30

「総合的学習の全国的動向について」

水越 敏行先生 (関西大学教授)

(4) シンポジウム 13:30～16:00

テーマ「新教科 総合人間科の成果と展望」

提 案 者	関 西 大 学 教 授 水越 敏行先生 文 部 省 教 科 調 査 官 鹿嶋研之助先生 名古屋大学教育学部教授 的場 正美先生 本 校 研 究 部 長 丸山 豊 本 校 卒 業 生 及 び 生 徒 木村 幸代 (卒業生) 本間綾一郎、渡邊 索 (高校3年生)
指 定 討 論	愛知県立大学名誉教授 山田 正敏先生 名古屋大学大学院教授 四方 義啓先生
司 会 者	本 校 校 長 安彦 忠彦 本 校 研 究 部 副 部 長 楨本 直子

(5) 閉会 16:00

〔Ⅱ〕 基調報告

研究担当運営委員 田中 裕巳

1. 本校における文部省研究開発の取り組みにつ
いて

(1) 実施期間 平成7年4月1日から平成10年3月3
1日まで

(2) 委嘱事項 高等学校において学習の遅れがちな
生徒に適應した教育過程の研究開発

(3) 研究主題 自分の人生を自覚的に選択していく
力を育てる教育過程の開発

－「総合人間科」設置の試み－

2. 研究開発に取り組むまでの経緯

(1) 完全中・高一貫教育をめざした学校改革

学部・附属の合意 (昭和63年10月)

「多様な生徒による学級編成」

「受験という動機づけのみに依存するのではなく本来の学習とはなにか、なんのための学習かを常に考えさせることにより基礎学力を身に付けさせ、かつ、それぞれの生き方を掴ませようとする」

「国民のための中・高一貫教育をめざすユニークな教育過程の開発と実践」

平成元年度入試より、希望者の附属高校全入をうたう

(2) 校内研究体制

① 自主的研究グループ時代 (昭和63年まで)

授業研究、生徒指導、コンピュータ、総合学習、進路研究、教育過程など中等教育研究協議会 教科と教科外 (研究グループによる) とを交互に総合学習研究グループ

高2 研究旅行 (広島) での平和学習

昭和55年～

中3 における総合学習「人間について考える」

昭和56、57年

高3 文系選択科目総合学習「生命について」

昭和61～平成7年

② 学校改革のための分科会時代

(平成元年～6年)

全教員による学校改革への取り組み

教育課程分科会、生徒指導分科会、平和教育分科会、国際理解分科会、学行事分科会のいずれかに所属して実践と研究を推進

3. 研究開発の実践・研究体制の特色

(1) 学部・大学・保護者とのつながり

運営指導委員会、研究協力者、スクールボランティア

(2) 実践・研究の単位としての学年担任団

担任団による年間指導計画づくり、教材研究、フィールドワーク実施

小グループ (分科会) 指導

(3) 教育活動の総合化

教科・教科外 (道徳、学校行事、学級活動、生徒会活動) の総合化、その結節点としての総合人間科

(4) 「総合人間科」の学習課題

現代的・人間的課題 生命・環境・平和・

人権・性・国際理解・核・・・

学年テーマ 生き方 (中1・高3)、生命と環境 (中2・高1)、平和を学ぶ (中3・高2)

(5) 「総合人間科」の3つの「脱」

脱教科 教師のTT、スクールボランティア

脱教室 フィールドスタディ、大学の研究室訪問

脱偏差値 教科とは異なる評価の観点

(6) 学校づくりとしての総合的学習 総合人間科の実践から見えてきたもの

生徒の学ぶ目的・意欲と「総合人間科」

教師の在り方を問う「総合人間科」

“教科の専門家”意識の揺さぶり、教師のチームワーク

“指導教官”から“オブザーバー”へ (高2)

地域社会の一員としての学校の在り方

4. 本日の公開発表会の視点

(1) 公開授業

3つの「脱」の意味

フィールドワークとの関わり

生徒たちの表現能力・コミュニケーション能力

教師の関わり方

(2) シンポジウム

総合的学習のさまざまな可能性

総合的学習の内在する問題点

[Ⅲ] 講演

総合的学習の全国的動向について

関西大学教授 総合情報学部長

大阪大学名誉教授 水越敏行

1. 揃える教育と違える教育

(1) 必修・選択・総合などカリキュラムの多様化。

(2) 教師の指導性と児童生徒の自律性との相互作用も多様化。

(3) 大学における講義・演習・実習・卒業研究をモデルに。

2. 選択学習～総合的学習について

(1) 環境教育、国際理解 (異文化理解) 教育、人間研究、地域研究、福祉教育などの今日の課題をカリキュラムの柱の一つに。

(2) 日本の中学校での事例

*滋賀大学附属中学校 「BIWAKO TIME」 (異学年